



あした

## 明日もしあわせ通信 (第63号) 令和3年9月号

### スマホはわたしたちの最新のドラッグである(「スマホ脳」より)

先日、久しぶりに松山に出かけるのに伊予鉄郡中線に乗った。座席に座り込んで、辺りをしばらく眺めると、大人から子どもまで、ややうつむき加減でスマホを見ていた。それから、次の駅から乗車してきた人も、席に着くなりすぐにスマホを取り出し、何か検索をはじめた。

今や「ネット社会」。このような光景はどこに行っても見ることができるし、私自身も同じようにスマホを開きネット情報を共有している。いつでもどこでも欲しい情報を引き出す事ができ、遠くの人との交流もできる。「ネット通販」も花盛り。便利な社会に身を置いて、ほんとうにありがたい社会を生きているとつくづく思う。

ところが課題も多い。情報の漏洩、ネット詐欺、

プライバシーの侵害、ネットモラル、依存症・・・子どもをもつ親にとっては、心配はつきない。「ゲームをいつまでもやっていて、勉強に手がつきません」「ネットに書き込みがあって、いじめられているのが分かったんです」「架空請求があって驚いています。」

昨年から世界的に話題となっている本がある。それが「スマホ脳」。(アンデシュ・ハンセン 著) 睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、依存・・・脳が自然と触まれていく現実。なんとこうしたスマホやアプリの開発者の多くは、我が子にその使用を禁止、または厳しく制限をかけていると言う。我が家の対策は・・・？ (k・H)



### ～はばたき教室～ (子どもが一步を踏み出す安らぎの教室)

～オリンピックでの感動と勇気をありがとう～

夏休みに行われた東京五輪は、はばたき教室の子どもたちにも大きな感動と勇気を与えてくれた。特に、水泳競泳の男子 200 メートル背泳ぎに出場した砂間(すなま)敬太さんは、小学校 4 年から中学校 3 年までほとんど学校に通えていない不登校生だった。しかし、学校を休みながらも地元のスイミングスクールで水泳は続けていた。

中学校 3 年生の時、水泳もやめようと思ったころ、天理高校の水泳部の監督から誘われて進学し、そこから世界が開けた。

高校 3 年の 4 月、日本選手権で思うような結果が出ず、失意のどん底にいた彼をあたたく迎えた天理高校のクラスメート。

「俺たちのエースで賞」と題した手作りの賞状を用意してくれた。友達の温かさが伝わり、その時からまた頑張ろうと決意したそうだ。

砂間選手の歩んできた人生は、学校に行きにくい子どもたちの心を揺さぶり、「今からでも間に合う。自分もやりたいことを見つけて、頑張ってみよう。」と、心に灯りをつけてくれた。自分の夢に向かって一步を踏み出す勇気を大切に持ち続けてほしい。・・・ はばたき教室相談 ☎ 989-5022 携帯直通 080-2974-4580



## 艱難(かんなん)汝を玉にす

『艱難(かんなん)汝を玉にす』(出典:西洋のことわざの意識)とは、「人は困難や苦勞を乗り越えることによって初めて立派な人間に成長する」という意味ですが、私はその活躍を願ってやまないプロ野球選手が、千葉ロッテマリーンズに所属する佐々木朗希(ろうき)投手です。

岩手県陸前高田市出身の佐々木投手は、小学3年生の時に東日本大震災による津波で自宅を流され、愛する父(功太さん)と祖父母を亡くしています。父の功太さんは、人情あふれる働き者として陸前高田では知られた人だったそうです。自宅の隣に住んでいた祖父母は、佐々木少年が学校帰りに遊びに行くと、いつもおやつを用意してくれているやさし

い祖父母であったそうです。

令和3年5月27日の阪神戦(交流戦)でプロ初勝利を飾った後のインタビューで、ウイニングボールをどうするかと聞かれて、「両親にプレゼントします。」と答え、残された幼い3兄弟を苦勞しながら女手一つで育てた母(陽子さん)は、「両親にと言ってくれたことがうれしい。」と号泣したそうです。

佐々木投手は、今はまだ磨かれている途中の玉ではありますが、その才能は素晴らしく、数年後には球界の大エースとして活躍している姿が浮かんできます。

以上「ことわざシリーズ②」でした。(E・F)



### センター長のつぶやき

#### <ビクトリーブーケ>

2020 東京オリンピック。連日の選手の活躍に心躍らされた。伝統の柔道はもちろん。復活した野球、ソフトで金メダル。バスケット女子も歴史的な銀。さらに新種目のスケートボードやサーフィンでも、若い世代が大活躍し、メダルを勝ち取った。

コロナ感染爆発のなかでのオリンピック。復興五輪も霞んで見えたかに思えた。

そんな時、メダリストが映るたびに、自分でメダルをかける光景とともに、かわいい花束(ビクトリーブーケ)も映し出された。

マスコットキャラクターにいだかれた花たちは可憐な輝きを放っていた。福島からトルコギキョウ・ナルコラン、宮城からヒマワリ、岩手からリンドウ。東北3県で震災後に、復興への希望を抱きながら、それぞれ大切に育てられた花だと知った。その花が、必死の努力で勝ち取ったメダリストたちの手の中で、やさしく微笑んでいた。

(DOIG)



## 《巡回発達相談》

### スモールステップで

水が苦手な A 君はとにかく水遊びが苦手です。みんなが着替え始めると一人嫌がって大泣きしていました。そんな A 君の様子を見て、先生方が話し合い、方針を考えました。まず、A 君が大好きな先生がびしょぬれになり、「おいで。」と誘って抱っこします。A 君は濡れるのは嫌だけど抱っこは嬉しくてじっとしています。それに慣れると足に水をかける、その次は体に水をかけて体が濡れるのが平気になる、顔にかかっても平気になる頃には、みんなのいるビニールプールで水遊びができるようになったそうです。

何日もかけてスモールステップで「できる。」を体験させる園の取り組みに頭の下がる思いでした。

巡回をしながらそんな園の苦心のお手伝いができればと思う今日この頃です。(A)



伊予市子ども総合センター  
〒799-3127 伊予市尾崎3-1  
伊予市総合保健福祉センター2階  
☎989-6226